

断熱リフォーム、自然エネルギーで攻勢

省エネビジネスが拡大

京都議定書発効 追い風に

地球温暖化防止や省エネ対策をビジネスに生かす取り組みが、山梨県内の企業で始まっている。政府が提唱する夏のビジネス軽装「クールビズ」など、温室効果ガスの排出削減を義務付けた京都議定書の発効を受けた取り組みが広がりつつあることを追い風に、顧客の開拓や企業のイメージアップにつなげたい考えだ。

高性能ガラス専門店のクリアガラス（甲府市上石田四丁目、林のり子代表）は、住宅の窓ガラスを断熱化するリフォームに力を入れている。

同社によると、住宅の中で熱の出入量が最も多いのが窓。夏は71%、冬は48%の熱が窓ガラスを通じて出入りする。そのため「窓を断熱するこ

とは、室内の快適さを保ち、省エネ効果を高める上で重要」という。

現在、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が窓の省エネルギーリフォームに対して費用の三分の一を補助する事業を展開しているのに合わせ（補助利用の申し込みは二十四日まで）、断熱効果の高い真空ガラスやペアガラスを採り入れたリフォームプランを提示しPRしている。



省エネ効果の高い断熱窓ガラス

＝甲府・クリアガラス